



るうてる



2015年
9月
No.813

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp
■発行人 ■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp
■印刷 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教「主よ、ください。」

日本福音ルーテル賀茂川教会牧師 神崎 伸

「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます。」
そこでイエスは言われた。「それほど言うなら、よろしい。家に帰りなさい。」
(マルコによる福音書第7章28、29節)



あなたはユダヤ人の救いのために来た。けれども、あなたの力はユダヤ人の救いのためだけに用いるには、まだまだ有り余るでしょう。あなたの恵みは実に豊かな筈でしょう。

その僅かな部分、わたしにも頂きますね。あなたはそれほどに豊かなお方です。

何とほげしい、ことばとことばによるぶつかり合いであらう！ まさに火花飛び散る「論争」というにふさわしい。

しかも、驚くなかれ。ここで、主イエスは「これまで、ファリサイや律法学者たちと論争をし、ことごとくその相手を打ち負かして来た主イエスが——負けておられるのである！ 主は、この人のことばに負けてしまった。いや、むしろ負けることを喜んでくださった。

主イエスとがっぷり四つに組んでこの方を負かしてしまつたのは、ファリサイや律法学者たちが「この者に触れたらばどうしたって手を浄めなければ食事が出来ない」と考えていた異邦人しかも女性である。どう見ても当時は軽んじられていたに違いない。

しかし、その女性が——ほんとうに小さな女性が——主イエスを説得してしまつたのである！

くとしても、ここに、そのように隠れてしまおうとなさる主イエスを引っぱり出してしまつた人が出て来たのであつた。「すぐにイエスのことを聞きつけ、来てその足もとにひれ伏し……娘から悪霊を追い出してくださいと頼んだ」(同7・25く26)。

しかし、しかし——必死の思いで飛び込んで来たこの母に対する、主イエスの心えのなんとつれなきことか。

ここも同じだろう。いくら呼んでも、叫んでも、主イエスはわれわれの願いを退けておられるように思える。主イエスはここでハッキリとこの者の願いを拒絶なさる。

一線を引いておられる。しかし、この女性、「もうこの方は駄目だ、他の所へ行こう」とうではないのだ。

「主よ……！ あなたは豊かなお方です。」

どこまでもご自身を見上げる者に、主イエスは負けてくださる——そして、彼女と同じく、神の子の前にひれ伏し、跪き続けるわたしたちにむかつてこぼれ落ちてくるのは、この主のことば——わたしたちが今も溢れるほど戴くのは、この主のことばをおいてほかにない。

主イエスはこのとき、一人ガリラヤを離れ、地中海沿岸の地方の「ある家に入り、だれにも知られたくないと思つておられた」(マルコ7・24)。ある人は、主イエスもお疲れになつたのでバカンスを取られたのだという。その当否はともか

犬——。よくもこのような言葉を主はお使いになつたものだと思う。異邦の民に対する明らかな卑称である。主イエスは「小犬」と仰つてその鋭さを和らげているのだと言つてもいいが、その厳しさにはいささかの変わりもない。

「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます」(同7・28)。

彼女は言い返した。

「その言葉で、じゅうぶんである。お帰りなさい」(マルコ7・29、口語訳)。

「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます」(同7・28)。

「主よ……！ あなたは豊かなお方です。」

どこまでもご自身を見上げる者に、主イエスは負けてくださる——そして、彼女と同じく、神の子の前にひれ伏し、跪き続けるわたしたちにむかつてこぼれ落ちてくるのは、この主のことば——わたしたちが今も溢れるほど戴くのは、この主のことばをおいてほかにない。

「主よ……！ あなたは豊かなお方です。」

どこまでもご自身を見上げる者に、主イエスは負けてくださる——そして、彼女と同じく、神の子の前にひれ伏し、跪き続けるわたしたちにむかつてこぼれ落ちてくるのは、この主のことば——わたしたちが今も溢れるほど戴くのは、この主のことばをおいてほかにない。



「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます」(同7・28)。

「主よ……！ あなたは豊かなお方です。」

どこまでもご自身を見上げる者に、主イエスは負けてくださる——そして、彼女と同じく、神の子の前にひれ伏し、跪き続けるわたしたちにむかつてこぼれ落ちてくるのは、この主のことば——わたしたちが今も溢れるほど戴くのは、この主のことばをおいてほかにない。

「主よ……！ あなたは豊かなお方です。」

どこまでもご自身を見上げる者に、主イエスは負けてくださる——そして、彼女と同じく、神の子の前にひれ伏し、跪き続けるわたしたちにむかつてこぼれ落ちてくるのは、この主のことば——わたしたちが今も溢れるほど戴くのは、この主のことばをおいてほかにない。

「主よ……！ あなたは豊かなお方です。」

どこまでもご自身を見上げる者に、主イエスは負けてくださる——そして、彼女と同じく、神の子の前にひれ伏し、跪き続けるわたしたちにむかつてこぼれ落ちてくるのは、この主のことば——わたしたちが今も溢れるほど戴くのは、この主のことばをおいてほかにない。

熊本地区宣教会議では、

宗教改革500年記念連続学習会に取り組んでいます。テーマは「読みたくなる宗教改革—宗教改革三大家作を讀む」

第1回『キリスト者の自由』
講師：小泉基牧師 開催終了

第2回『教会のパピロン捕囚』
日時：2015年9月18日(金) 19時
講師：関瀧能牧師

第3回『ドイツのキリスト者貴族に与える書』
日時：2015年11月20日(金) 19時
講師：立野泰博牧師
会場：いずれも日本福音ルーテル大江教会

8・15 平和祈禱会

2015年8月15日に東京の千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて「8・15 平和祈禱会」が開催されました。大勢の参加者と共に、キリスト教会こそが口を閉ざさず、今こそ平和のために声を上げることへ励まされ、グループに分かれて平和を求める祈りを捧げました。

宗教改革500年に向けてルターの意味を改めて考える(41)

ルター研究所所長 鈴木 浩

ローマ書3・22には「イエス・キリストを信じる信仰による神の義(口語訳)という言葉がある。日本語訳の聖書はほぼ一貫してこのような読み方をしてきた。文語訳も、口語訳も、新共同訳も同じ趣旨の訳し方になっている。

ところが、もともとの表現は「イエス・キリストのピステイス」となっている。この「ピステイス」は通常、「信仰」と訳される言葉である。すると、ここは「イエス・キリストの信仰」となつて、日本語では「イエス・キリストが持つていた信仰」という意味に受け取られてしまつた。そこで「信じる」という言葉を付け加えたのだ。

しかし、この箇所は、「イエス・キリストの生涯、死、復活を通して示された神の義」という意味である。その「イエス・キリストの生涯、死、復活」を「ピステイス」という一語で表したのだ。

こうしたことはこの欄でもすでに指摘したが、非常に重要なので、改めて考えたい。キーワードはこの「ピステイス」と「神の義」である。ルターにとつては「神の義」という言葉が決定的に重要であつた。そして、宗教改革はこの「神の義をどう理解するのか、という点をめぐって始まつていったのだ。



が鳴き始めました。夜になるとガマガエルがのし歩く姿も目にするのです。メダカの水槽に植えた蓮の葉っぱには、いつも小さなバツタが止まっています。ことに気づきました。顔を近づけても逃げ

起こすのが「野の花を見よ」(マタイ6・25以下)という山上の説教でしょう。野の花や空の鳥を慈しまれる神様の愛を覚え、そこから、人間へのなおさらの神様の恵みを思い起こすのです。

起こすのが「野の花を見よ」(マタイ6・25以下)という山上の説教でしょう。野の花や空の鳥を慈しまれる神様の愛を覚え、そこから、人間へのなおさらの神様の恵みを思い起こすのです。

「実り多い秋の行事のために」

総会議長 立山忠浩

ことなく、堂々としていたのです。小さな存在であつても与えられた命に誇りを持ち、狭い庭の自然の中で健気に生きていくように感じられ、思わず一礼したくなりました。

先日小さな文章をしたためた際に、私たちが礼拝ごとに用いる式文について改めて想起することがありました。礼拝はいくつかの部に分けられています。その始まりごとに「主と共におられるように」と司式者が会衆に

臨在があることを繰り返すからだと刻むのです。このことをルーテル教会では特に、説教と聖餐・洗礼によって刻印するとは言うまでもありません。

季節は秋に向かいます。各教会で伝道のための集

6月28日、「カトリック福岡地区キリスト者一致推進の集い」の呼びかけにより、標記の集いが福岡市内のカトリック大名町教会にて行われました。

この集いの趣旨は(エキュメニカル運動の一環として)「議論ではなく、

知るといふことから始めたい」というもので、今回は前年までの日本キリスト教団、日本バプテスト連盟の講話に続き、3回目となりました。当日、会場にはカトリック信徒の方が多かつたようですが、ルーテル教会からも20人ほどが参加し、全体でおよそ90名が集まりました。

「生涯つなぐる信仰の友と」ELCAユース大会報告

秋元ゆりあ (藤が丘教会)

今回、私を含め世界から招かれた人々は15の国々からの30人でした。始めの1週間はシカゴでこの30人のために行われたオリエンテーションに参加しました。その後の10日間はサウスカロライナにて、4つの教会をまわって過ごしました。大会会場のデトロイトでの5日間は、コミュニケーションの日、サー



ELCA ユース大会

ビスの日、シノッドの日とに分かれ、コミュニケーションの日はマウントホーレブ教会(リビングストン先生の教会の人々と過ごし、サービスの日には世界各地からの参加者全員でツアーに出かけました。シノッドの日にはサウス

スカロライナから参加していた全員とイエス様が癒した体の不自由な人のお話について考えました。

最も印象に残ったのは、同じ信仰を持つ3万人の人が集まっていたという事です。そのことに圧倒されましたが、とても楽しかったです。講演をしてくれる方々の話に参加者が感銘を受け、拍手をした時は、皆が一体となつていてることを感じました。

アメリカで素晴らしい時間を過ごすことができ、多くのことを学びました。新しい友人もでき、言葉の壁を乗り越えて交流することができました。また、初めてベビーシッターングを経験し、サウスカロライナの人々の旗に対する思いも学びました。

素晴らしい時間を3万人の人々と一緒に過ごし、生涯つなされる友達と出会う機会を与えられたことに感謝しています。

初めに、2人の発題者がルーターの生涯を切り口に宗教改革について話しを進めました。ルーターはカトリック側から見れば教会に背く異端者でしたが、もともとルーターは当時の教会に抵抗するために宗教改革を起こしたのでなく、人間の魂の救いを真剣に求めた結果であること、また、その彼を無条件で「あがめる」のではなく、彼自身限界がある(ユダヤ人や

トルコ人に対して心の狭い態度で接したなど一人の人間だったことも率直に受け止めてい

4つの家庭にホームステイしました。色々な種類

ユース大会に参加して

もの見方が大きく変わるような体験をすることができ、誰もが神様のお話を共有し、神様



秋元さん(左端)とELCAの議長 Elizabeth A. Eaton 牧師(右より2番目)

この集いが宗教改革500年に向けて、地域へのアピールだけでなく、目に見える歩み寄りの機会となったことはとても喜ばしく、実り多い時でした。

諸教派との対話と理解の講話「日本福音ルーテル教会に聴く」宗教改革とは……」

池谷考史 (博多教会/福岡西教会) 和田憲明 (箱崎教会/聖へテロ教会)

6月28日、「カトリック福岡地区キリスト者一致推進の集い」の呼びかけにより、標記の集いが福岡市内のカトリック大名町教会にて行われました。

この集いの趣旨は(エキュメニカル運動の一環として)「議論ではなく、知るといふことから始めたい」というもので、今回は前年までの日本キリスト教団、日本バプテスト連盟の講話に続き、3回目となりました。当日、会場にはカトリック信徒の方が多かつたようですが、ルーテル教会からも20人ほどが参加し、全体でおよそ90名が集まりました。

初めに、2人の発題者がルーターの生涯を切り口に宗教改革について話しを進めました。ルーターはカトリック側から見れば教会に背く異端者でしたが、もともとルーターは当時の教会に抵抗するために宗教改革を起こしたのでなく、人間の魂の救いを真剣に求めた結果であること、また、その彼を無条件で「あがめる」のではなく、彼自身限界がある(ユダヤ人やトルコ人に対して心の狭い態度で接したなど一人の人間だったことも率直に受け止めてい

質疑の時間には「新教より旧教の方がよい」と教わったが、このような話を聞いたことは感謝だ。この日を夢見ていたから、「聖礼典など聖公会はカトリックに近いように思うがルーター派の位置づけはどうか？」など、多くの質問が挙げられ、ルーターや宗教改革、ルーテル教会への関心の高さが印象的でした。

この集いが宗教改革500年に向けて、地域へのアピールだけでなく、目に見える歩み寄りの機会となったことはとても喜ばしく、実り多い時でした。

主催:カトリック福岡地区キリスト者一致推進の集い
お問い合わせ:092-581-1111

礼拝式文の改訂



⑩「礼拝式文の音楽」 (その2)

式文委員 松本義宣

以前、ヒーリング

ミュージック(癒しの音楽)ブームで、「グレゴリオ聖歌」のCDがベストセラーになりました。どこかで耳にした方も多いと思いますが、縁遠いどこかの修道士が歌っている別世界の音楽と感ずる方もあるでしょう。でも、実はまったく同じではなく、も、あなたも毎週礼拝で歌っているのですと言われると、少し興味が湧きませんか？

ラテン語を用いる西方ローマ教会に「グレゴリオ聖歌」が登壇し、礼拝音楽の源泉となります。むしろ、これはいわゆる西洋音楽の起源の一つと言ってもよいかも知れません。教皇グレゴリウス1世(在位590〜604)に由来する名称ですが、実際は、それまで各地域で発展してきた様式が、9世紀以降に

まとめられ、偉大な教皇名を冠して呼ばれるようになりまし。特徴は、ラテン語を歌詞とする単旋律無伴奏の歌で、拍子の感覚が弱く(無く?)、現在の調性音楽とは異なる「教会旋法」という音組織です。専門的なことは省きますが、ごく大雑把に言つて、私たちの現行式文音楽「A」の(口)や、「サンクトゥス(聖なる)」、「アグヌスデイ(神の子羊)」、それに聖餐式冒頭の「序詞」は、その伝統に基いているものです。

また、散文としてラテン語訳された詩編を歌うために、独特な詩編唱定型が発展します。詩編の詩行の前半を「発唱句」で始め、「保持音」(一定の音程で歌う)で続け、「中間終止句」でいったん半終止させ、さらに詩行の後半で再び「保持音」に戻り、最終的には「終止句」で閉じる歌い方です。これも先に挙げた「教会旋法」に応じて様々なものがあり、やがて、詩編の前後に短い「答唱句」が付けられます。紙面ではなかなか分かりにくいのですが、『讚美歌21』の11番や、カトリック教会の『曲礼聖歌』にある詩編歌などを参照ください。

また、極めて大雑把ですが、後に、英語圏でやはりこの様式を土台にして「詩編」を歌うようになってきた「アングリカン・チャント」と呼ばれる形式があります。これは、私達にも親しい例があります。式文「A」の「グロリア」がその典型です。さらに広く言えば、司式と会衆が交唱する形式、式文の(イ)や「キリエ」の(二)等もこの流れを汲みます。ちなみに「A」の「キリエ」(一)は、ボヘミア兄弟団によって歌われ、ルーテル教会により継承されてきた伝統的なものです。様々な伝統が、私たちの式文音楽にはあるのです。

さて、音楽の歴史としては、単旋律のグレゴリオ聖歌に、同じ旋律を違う音程で重ねたり、繰り返したり、新しい旋律を挿入したり、やがて別の対旋律を付けて、複数の旋律を歌ったりという試みがなされて教会音楽は発展し、豊かになっていきます。礼拝式文では「ミサ」と呼ばれる通常文(毎週不変の部分)と、固有文(その日特定の詩編や祈禱文)に音楽が付けられていき、「ミサ曲」が誕生します。中世にはポリフォニー(複数の旋律が独立して調和を保つ)全盛の時代を迎えます。しかし当然、音楽は複雑化し高度化します。専門家や訓練を受けた聖歌隊以外は、礼拝に参画できな時代が長く続くこととなります。(続く)

宮澤真理子(岡崎教会)
岡崎教会では、毎月第3日曜の礼拝後「ミニ信徒会」を開いています。ひとつのテーマを自由に語り合います。昨年は憲法について弁護士の前から学んだり、牧師館解体・敷地整備について語り合いました。

今年のミニ信徒会は、年間テーマを「終わりの日を迎えるにあたって...:よりに良く今を生きるために」としました。5月は終活、6月は相続、7月は介護



連載 マルティン・ルター、人生の時の時(8)

江口再起

死(1546年、63歳)「それでも、リンゴの木を植える」

やがてルターは死を迎えます。体調が悪かったのですが、マンスフェルト伯家の遺産争い調停のために旅に出かけその途中で客死します。63歳。死のテーブルには「わたしは神の乞食」というメモが残されていました。神の恵みに乞いますが、ということでしょうか。いささかあつけない幕切れです。

死(1546年、63歳)「それでも、リンゴの木を植える」
ために旅に出かけその途中で客死します。63歳。死のテーブルには「わたしは神の乞食」というメモが残されていました。神の恵みに乞いますが、ということでしょうか。いささかあつけない幕切れです。

したが、人生、こんなものかもしれない。しかし、それよりもルターの死生観を見事に表現している二つの言葉を紹介しておきましょう。

一つは、14歳の娘マグダレーネ(愛称レニツヘン)が亡くなった時の言葉です。「愛するレニツヘンよ、お前はよみがえつて、星や太陽のように輝くだろう。お前は安らかにしているし、万事申し分はない。と、いうことを知っていたながら、しかも実に悲しいなんて、なんと不思議なことだろう」。すべてを神様にゆだねる、

しかし、ルターは生涯、この娘の死を悲しんでいません。その意味で人間はどれでも「リンゴの木を植える」。その意味で人間はどれでも能動的でありうるのです。つまり「受動的能動性」、これがルターの人生・信仰・思想・神学の根本基調です。

一つは、14歳の娘マグダレーネ(愛称レニツヘン)が亡くなった時の言葉です。「愛するレニツヘンよ、お前はよみがえつて、星や太陽のように輝くだろう。お前は安らかにしているし、万事申し分はない。と、いうことを知っていたながら、しかも実に悲しいなんて、なんと不思議なことだろう」。すべてを神様にゆだねる、

もう一つ。「たとえ明日世界が終るとしても、それでも今日、わたしはリンゴの木を植える」。この言葉はルターの言葉として伝えられている言葉ですが、ルターの「生きる」姿勢を、そして「死ぬ」姿勢をよく表しています。死は好むと好まざるにかかわらず向こうから迫ってくるもので、その意味で人間は受動的である他ない。しかし、そうしたことを含めて、そ



宣教の取り組み

「豊かにされる」聖書を「いただく」

宮澤真理子(岡崎教会)

サービス、8月は健康づくり、9月は家族関係、10月は教会の葬式についてとテーマを絞りました。

5月は地元の葬祭業者の方に来ていただいて「なぜ今終活か」のお話を伺いました。高齢者夫妻世帯の増加、地域コミュニティの減少、介護保険・税制の改定など、不安の少なく



ない社会の中で、死や葬式をタブー視するのではなくきちんと向き合い、自分らしいエンディングに向かつて今をより良く生きるための活動が終活です。そのためにエンディングノートを書きませんかと勧められました。葬祭業者さんから伺った「終活」と教会のミニ信徒会の趣旨と重なる点が多くありました。一方で、わたしたちはエンディングをゴールとしていないことも知らされました。わたしたちは自分のより良い生涯を求めますけれども、すでに神さまの恵みの中で生かされています。わたしたちの思いを越えた

愛で支えてくださる神さまにゆだねることを聖書から聞き続けています。6月以降は、税理士やケアマネジャー、保健師として専門分野で働かれる信徒の賜物が用いられます。9月はルーテル学院大学の福山和女先生より「家族(夫と妻、親と子、嫁と姑)の関係をよりよくするために」をテーマにお話を伺います。毎月の開催が楽しみです。



わたしたちの『内なる人』は日々新たにされていきます。「コリントの信徒への手紙二(4・16)」

小さな説教集出版 『アンデルセンに聞く 聖書の言葉』



田島靖則(雪ヶ谷教会)

昨年から今年にかけて、私が牧師を務める雪ヶ谷教会の主日説教にたびたびアンデルセン童話が登場していたことは、雪ヶ谷教会に集うごく限られた人たちしか知らなかったことです。岩波文庫の『完訳アン

デルセン童話集』は実に7巻にわたる大部で、まさに話題の宝庫。ルーテル教会の国デンマークの童話作家の作品ですから、ルーテル教会の礼拝説教で取り上げるのにこれ以上最適な素材はないと言っても良いくらいです。つまり私は昨年から今年にかけて、礼拝説教の「産みの苦しみ」に際して、何度もアンデルセンに助けられたというわけ

には縁遠い人たちにも手にとつてもらえるのではないかと考え、出版社を相談し、このたびの出版にこぎ着けました。大学の恩師の一人には、「まだ説教集は早いんじゃないか？」と言われましたが、これはもちろん牧師生活の集大成としての説教集ではなくて、牧師生活の「折り返し地点」で出す「小さな説教集」なのです。

私が幼稚園園長として関わっているキリスト教保育連盟では、何度か礼拝奉仕を行っています。よく日本基督教団に属する先生方から、「先生のショートメッセージは分かりやすい」とお褒めの言葉をいただきました。しかし私は内心、「これが普通の説教なんだから……」と「ショート」という部分に異議を申し立てたい気持ちに駆られたものです。つまりこの説教集は、「簡潔」「平易」を旨とした「薄くて」「軽く挿絵は、そのキリスト教保育連盟での同業者である幼稚園の園長先生の作品です。

もし書店で見かけることがあれば、ぜひ手にとつてご覧ください。

宮崎育ちのオルガン、九州ルーテル学院中学・高等学校へ

秋山綾子(宮崎教会)



南国情緒溢れる宮崎に建つ宮崎教会。1998年に、ここにひとつのパイプオルガンが与えられました。オークの木

の風合いを生かした外観で、その両側には可愛らしい一對のラッパを持つ木彫りの天使の装飾が施され、見た目は小ぶりながらも、華やかな音色も重厚で荘厳な音色も兼ね備えつつ、礼拝

り添う暖かくて繊細な音色を響かせます。建造者は、オランダ生まれでスイスに工房を持つオルガン建造家ベルンハルト・エツケス。数々のヨーロッパの歴史的オルガンの修復でも名高いエツケスが建造したオルガンは、日本にはあ

夏休み北海道 寺小屋合宿について

東教区社会部長
小泉 嗣



夏休み北海道寺小屋合宿のひとこま

東教区プロジェクト3・11は、本年度70万円の募金目標を立て、被災地支援への参加を呼びかけている。支援先は5ヶ所。それぞれ届けられる支援金額は決して多くはない。しかし、どれも個々のつながりの中から出会った団体であり、現在もお支援を続けるプログラムである。

「夏休み北海道寺小屋」には縁遠い人たちにも手にとつてもらえるのではないかと考え、出版社を相談し、このたびの出版にこぎ着けました。大学の恩師の一人には、「まだ説教集は早いんじゃないか？」と言われましたが、これはもちろん牧師生活の集大成としての説教集ではなくて、牧師生活の「折り返し地点」で出す「小さな説教集」なのです。

私が幼稚園園長として関わっているキリスト教保育連盟では、何度か礼拝奉仕を行っています。よく日本基督教団に属する先生方から、「先生のショートメッセージは分かりやすい」とお褒めの言葉をいただきました。しかし私は内心、「これが普通の説教なんだから……」と「ショート」という部分に異議を申し立てたい気持ちに駆られたものです。つまりこの説教集は、「簡潔」「平易」を旨とした「薄くて」「軽く挿絵は、そのキリスト教保育連盟での同業者である幼稚園の園長先生の作品です。

もし書店で見かけることがあれば、ぜひ手にとつてご覧ください。

南国情緒溢れる宮崎に建つ宮崎教会。1998年に、ここにひとつのパイプオルガンが与えられました。オークの木

の風合いを生かした外観で、その両側には可愛らしい一對のラッパを持つ木彫りの天使の装飾が施され、見た目は小ぶりながらも、華やかな音色も重厚で荘厳な音色も兼ね備えつつ、礼拝

り添う暖かくて繊細な音色を響かせます。建造者は、オランダ生まれでスイスに工房を持つオルガン建造家ベルンハルト・エツケス。数々のヨーロッパの歴史的オルガンの修復でも名高いエツケスが建造したオルガンは、日本にはあ

この17年間、教会を訪れる方々の涙をぬぐい、慰めと生きる勇気を与え続けてくれたエツケスオルガンですが、この度、熊本ルーテル学院中学・高等学校に、学校創立90周年を記念して、移設されることになりました。より多くの若い人達に、音楽の持つ力を通して神様の愛が伝わるようにとの、教会員一同の願いと祈りがあります。

行政を問い直す宗教者の会(代表世話人・内藤新吾牧師/稔台教会)が、福島第1原子力発電所事故の影響による放射線量の高い地域に住む子どもとその家族、またその地域から避難している子どもと家族を対象にした11日間(長期は35日間の保養プログラム)である。2014年は、実に285名の参加者が36箇所の受入先(主に寺院)でプログラムに参加した。

会は「保養の意義」として、子どもたちが少しでも放射能による被害から守られることを願い、宗教宗派を超えた全国ネットワークである「原子力

行政を問い直す宗教者の会(代表世話人・内藤新吾牧師/稔台教会)が、福島第1原子力発電所事故の影響による放射線量の高い地域に住む子どもとその家族、またその地域から避難している子どもと家族を対象にした11日間(長期は35日間の保養プログラム)である。2014年は、実に285名の参加者が36箇所の受入先(主に寺院)でプログラムに参加した。

この意義から見えてくるものは、2011年3月11日にたまたま福島に住んでいたというだけの理由で、4年が経過した今でもなお、子どもも親も「安心と希望が

奪われた日常に生きていくという現実である。昨年のプログラムへの申し込みが受付開始初日で定員を超えたということもまた私たちが知るべき現実であろう。

この17年間、教会を訪れる方々の涙をぬぐい、慰めと生きる勇気を与え続けてくれたエツケスオルガンですが、この度、熊本ルーテル学院中学・高等学校に、学校創立90周年を記念して、移設されることになりました。より多くの若い人達に、音楽の持つ力を通して神様の愛が伝わるようにとの、教会員一同の願いと祈りがあります。

このオルガンと共に過ごすことのできた年月への感謝を表し、今年の5月に制作された一枚のCDが、雑誌『レコー



アイヌ文化ワークショップ

この17年間、教会を訪れる方々の涙をぬぐい、慰めと生きる勇気を与え続けてくれたエツケスオルガンですが、この度、熊本ルーテル学院中学・高等学校に、学校創立90周年を記念して、移設されることになりました。より多くの若い人達に、音楽の持つ力を通して神様の愛が伝わるようにとの、教会員一同の願いと祈りがあります。

このオルガンと共に過ごすことのできた年月への感謝を表し、今年の5月に制作された一枚のCDが、雑誌『レコー

訂正

本紙8月号の4面、女性会連盟総大会の報告に、大塚野百合先生の所属について「恵泉女子大学名誉教授」とあるのは、「恵泉女子園大学名誉教授」の誤りでした。お詫びして訂正します。

電話番号変更

古村博明宣教師
03(6883)5634